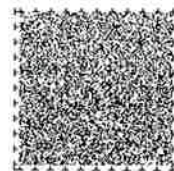


「平成21年度国立更生援護 施設理療科教官研修会」実施報告

理療教育・就労支援部理療教育課 谷口 勝



去る8月3日、本館大会議室において標記研修会の開講式が挙行され、主催施設を代表して阿部光教施設管理室長並びに江藤文夫更生訓練所長からご挨拶をいただきました。各視力障害センターから14名の理療科教官、また当センター教官を合わせ三十数名の教官が参集し、1週間にわたる研修会が開幕いたしました。

本研修会は、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室と当センターによって毎年実施されているもので、今年度も8月3日から5日までの教科教育研修会と8月3日から7日までの臨床教育研修会を同時並行で行いました。

教科教育研修会は、各国立更生援護施設及び当センターに勤務する理療科教官を対象として、教官個々の専門性向上と教官相互の協力体制の強化を図ることを目的としています。今年度は、「就労を見

据えた教育体制の検証－臨床を核とした教育体制の検討に向けて－」と題して開催いたしました。

理療師を養成するための教育訓練はすべてが就労・臨床に向っており、臨床を核とした教育指導形態を確立させる必要があることからテーマを設定したところです。

一方、これと並行して開催した臨床教育研修会は、初任者及び臨床研修を希望する理療科教官を対象として、臨床教育の向上を図ることを目的としています。今年度は、「臨床教育の拡充に向けて－養成施設から研修コースまで－」をテーマとし、卒後教育として、充実した研修を提供させるための方略を探ることを目指して研修を実施いたしました。

次に主な研修内容および実施状況について日程順に報告いたします。

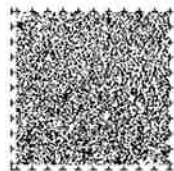
初日（8月3日）

主催施設挨拶に引続き基調講演が行われました。「超高齢社会におけるあはき師の役割と理療教育のあり方」をテーマに、東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科学科長である坂井友実教授から講演がありました。先生からは、超高齢社会において鍼灸手技療法は治療手段の一つになり得ると考えられるが、鍼灸手技の利点と限界、超高齢社会をよくわきまえ、現代西洋医学とうまく使いあわせて、適切に対応できる力量をもつことが重要であることが示唆されました。



坂井先生による基調講演





2日目（8月4日）

午前中は視聴覚教室において、「効果的な受験対策をめざして－成績不振者の実践力底上げにつながる方略を探る－」をテーマとしてシンポジウムが行われました。各センターからの報告に加え、熊谷理療技術高等盲学校の大西剛教頭から、「本校における受験対策の事例紹介－あはき師国家試験の合格に向けた取り組み－」と題して盲学校における個性的

でユニークな取り組みが紹介されました。

午後からは、筑波技術大学准教授の藤井亮輔氏により、「視覚に障害を有するあはき師の就労状況から将来展望まで」、また、これと関連して、「地域理療と理療経営の教授法について」の2題について講演がありました。

3日目（8月5日）

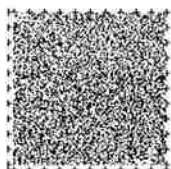
午前中は視聴覚教室において、「各センターにおける臨床実習の実態から、基礎実習・応用実習の問題点、並びに就労への方向付けを考える」をテーマとして研究協議が行われました。また、これに続き来年度から国家試験において利用されるDAISYへの対応について、財団法人東洋療法研修試験財団のテープ問題検討会委員長で筑波技術大学の村上佳久氏から、「試験に伴うDAISY-CDの使用に係るDAISY機器（録音機能付）のデータ消去等につい

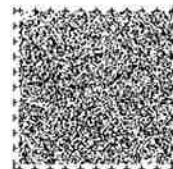
て」、講演並びに実演を行いました。以上の日程で教科教育研修会は終了となりました。

午後からは臨床教育研修会に的を絞り、医学博士である丹澤章八氏をお招きして特別講演とワークショップが行われました。講演は、「卒後教育のあり方－臨床研修コースの指導法確立に向けて－」、引き続き、「臨床脳（あたま）を創る」と題し、模擬患者と施術者の対話から学生を臨床に導くスタイルでワークショップが行われました。



丹澤先生による特別講演、ワークショップ





4日目（8月6日）

4日目は臨床実習室において、終日、講義と実技が行われました。講師は、訪問リハビリ研究センター代表取締役である西村久代氏、テーマは、「あは

き師のための在宅ケア実践テクニック」で、介護に関するテクニックについて実技を中心としてわかりやすく指導していただきました。



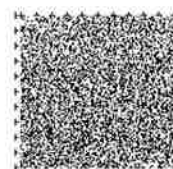
西村先生による実技指導

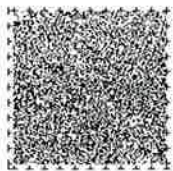
最終日（8月7日）

午前中、視聴覚教室において、「魅力あるプレゼンテーションの実践」と題して、論文作成コーチングラボ主宰である石井一成氏にご講演をいただき、授業や臨床研究に活用するためのプレゼンテーションを紹介いただきました。

以上をもって1週間にわたる全プログラムが終了

いたしました。研修会期間中、大きなトラブルもなく全日程を円滑に進行することができましたことは、ご講演賜りました各講師の皆様、研修会に参加いただいた教官の皆様、また、研修会に関してご指導いただいた皆様のご協力によるものと存じます。心より感謝し御礼申し上げます。





野外訓練を終えて（就労移行支援）

総合相談支援部総合支援課

会田 孝行

7月15日（水）～16日（木）、東京YMCA山中湖センターにて、就労移行支援の利用者を対象に野外訓練を実施しました。この野外訓練は、「日頃の生活・訓練場面とは異なる自然環境における野外活動を通して、利用者の自主性と協調性を養い、心身の健康の増進やリフレッシュを図る」ことを目的とし、利用者33名、職員25名の計58名が参加しました。

東京YMCA山中湖センターは、山中湖のほとりにあり、目の前が富士山と、豊かな自然に囲まれたキャンプ場です。この時期に心配なのは雨ですが、幸いにも天気にも恵まれ、無事予定通りに進めることができました。

1日目の夕食は自炊です。メニューはカレー、サラダ、フルーツですが、これは事前準備の際に、食事班が検討を重ねた上で決定しました。当日は、グループごとに分かれて調理を行いましたが、見事な包丁さばきを見せていた利用者に周囲は驚き、本人は実に得意気な様子でした。このように野外訓練では、普段の訓練や生活では見ることができない利用者の一面を見ることができました。

皆で協力して食事を作ることは、野外訓練の楽しみの一つ。肝心のカレーの味の受け止め方は人それぞれでしたが、実施後のアンケートで「いつもと違う場所で、皆と一緒に作り、食べたことで満足」と記載された人がいるとおりに、皆で協力して作ったものを一緒に食べたことは、多くの人が良い思い出になったことと思います。

夕食後はキャンプファイヤー。グループごとに分かれて、ジェスチャーや〇×クイズを行いました。この野外訓練には肢体不自由、聴覚障害、高次脳機能障害などさまざまな障害のある方が参加していますので、キャンプファイヤー係は、準備の段階から

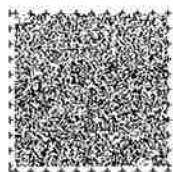
いかに皆にわかりやすく、楽しめるようになるか議論を重ね、パワーポイントを用いるなどの工夫をしました。このような準備が功を奏して、キャンプファイヤーは随所で盛り上がりを見せ、特にジェスチャーでは皆のユーモアあふれる身振りが大盛況となりました。

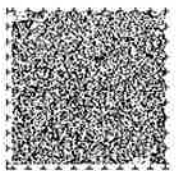
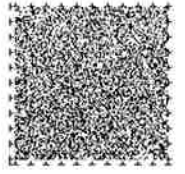
キャンプファイヤー終了後、薪の残り火を囲んで、職員、利用者が談笑していましたが、普段とは違ったシチュエーションの中で職員と利用者が談話を楽しむことができるのも1泊の野外訓練だからこそ。慌しい日常から離れて、このような時間を共有することで、利用者の皆さんがリフレッシュを図ることができたのではないのでしょうか。

2日目のレクリエーションは、フリスビーとクイズ、それが終わった後は山中湖でボートです。フリスビーはチームに分かれ、的にいれた得点で勝敗を争いました。的は傘なので大きく見えますが、見るのとやるのでは大違い、なかなか的に入らず悪戦苦闘する中、見事に的に入れることができた時は、皆で拍手するなどチームの枠を超えて楽しんでいました。

「ボート初体験だったのでめちゃめちゃ楽しかった、また乗りたいな」とアンケートで記載した方がおりました。ボートに乗る機会がなかなかない方にとって、富士山を目前としたボート体験は、貴重な経験になったことでしょう。

終了後のアンケートでは、全ての項目で「満足」と返答した方がたくさんいます。こうした結果を出すことができたのも、利用者、職員が準備の段階から協力して進めることができた結果の賜物だと思います。ご協力いただいた職員の皆様、ありがとうございました。





平成21年度 就労移行支援野外訓練実施後アンケート結果

単位：人

1. 回答数

利用者	29
職員	21

2. 日程

	利用者	職員	合計
ちょうど良い	18	20	38
長い	2	1	3
短い	9	0	9
計	29	21	50

3. 食事はどうだったか？

	利用者	職員	合計
満足	19	10	29
どちらともいえない	8	8	16
不満	2	3	5
計	29	21	50

4. キャンプファイヤーはどうだったか？

	利用者	職員	合計
満足	20	14	34
どちらでもない	9	5	14
不満	0	1	1
計	29	20	49

1名無回答

5. 2日目午前中のレクリエーションはどうだったか？

	利用者	職員	合計
満足	16	14	30
どちらでもない	12	6	18
不満	1	1	2
計	29	21	50

6. キャンプに参加して良かったか？

	利用者	職員	合計
満足	26	17	43
どちらでもない	2	3	5
不満	1	0	1
計	29	20	49

1名無回答

自立訓練利用者の野外訓練の 実施について

自立訓練部自立訓練課 植木 朋子

去る7月23日、小雨のばらつく空模様の中、自立訓練利用者32名（機能訓練17名、生活訓練14名、発達障害モデル事業1名）はバス2台に分乗し、目的地である「道の駅あしがくぼ」（西武線芦ヶ久保駅近く）に向けてセンターを出発しました。

この野外訓練は視覚障害や肢体不自由の方を対象とする機能訓練と高次脳機能障害の方を対象とする生活訓練、それぞれの自立訓練利用者の皆さんが一緒になって、日常実施している訓練を離れ、手作り体験等を通して交流を深めるとともに、事前準備などで相互の協力を深めることを目的として実施しました。

道の駅あしがくぼまでの道中では、事前に利用者全員で話し合いを重ねて企画をしたレクリエーションとして自己紹介ならぬ「他己紹介」、「ビンゴゲーム」などが行われました。ある方は他己紹介に録音再生機を使い、またある方は点字を打った手作りビンゴカードで参加し、障害を越え、全員が一緒になって楽しみ、またそれぞれに訓練成果を発揮する場面にもなりました。

現地に到着し、少し早い昼食となりましたが、秩父名物の手打ちそばと川魚の甘露煮の「あしがくぼ定食」をいただきました。ほっと和む味に、ほぼ全員が完食されていました。

昼食後は野外訓練のメインイベントである、陶芸、釣り、ガラス細工を各グループに分かれて体験していただきました。

陶芸は手びねりで、湯のみ、平皿、小鉢など指先の感触を頼りに、思い思いの形を作り上げました。1時間以上かけて粘土と向き合い、こだわりを見せる人もいました。焼き上がりは乾燥など含めて2ヶ月後。好みの釉薬の色も選び、どんな仕上がりになるのか楽しみです。

釣りは渓谷での竹竿釣りでした。前日まで降り続いた雨で当日は川の増水や足場のぬかるみなどが心

配されましたが、現地に着くと、そんなことも気にならないほど魚を相手に盛り上がり、太公望気分の2時間でした。介助する職員にも釣りの経験のない人が多かったのですが、見事に全員がニジマス、ヤマメを釣り上げ、その場で塩焼きにしておいしくいただきました。

ガラス細工では、サンドブラストというガラス製のグラスや灰皿などの器に模様をつける体験をしました。型抜きしたテープをガラス表面に貼りつけ、コンプレッサーの力で砂を吹き付けると、スリガラス状の模様が浮かび上がります。指先で模様の凹凸が分かるので、触れても楽しめる作品を土産に持ち帰ることができました。

数回に渡り利用者の皆さんが話し合って企画した内容は大きなトラブルもなく概ね予定通りに終えることができました。普段の訓練の場を離れ、自然の中でリフレッシュするとともに、利用者、職員間の交流が深まった充実の一日でした。ご協力いただいた各部署の職員の皆様に改めて感謝し、お礼を申し上げます。



